

次の文章を読み、あとの問に答えよ。

(50点)

又E

1 昔、仏法求むる\*道人有りけり。ある山の中を行くに、二人の山がつ、一人ははた畠を作るあり。父子なるaべし。これを見れば、その子、毒蛇のために刺されて俄かに死xにけり。父、歎く気色なくて、この道人に語りて云はく、「そのおはする道のほとりに家あり。これ我が家なり。それより食を持ちて来たるべし。『ただ今、この子俄かに死せり。一人が食を持ちて来たれ』と告げてたぶべし」と云ふ。道人、「父子の別れは悲しかるべし。いかに歎きの色なき」と問ふに、答へて云はく、「人の親子はわづかの契りなり。鳥の、夜林により居て、明くれば方々に飛び去るが如し。皆、業に任せて離れ、別るべし。何の歎きかあらむ」と。

さて、かの家に行きて見れば、女人食物を持ちて、門に逢ふ。「いしかしか」と語れば、「さては」とて、一人が食をとどむ。家の内に老女あり。僧問ふ、「かの死せる人は、その御子か」と問ふ。「しかり」と答ふ。「など歎き給ふ気色なき」と問へば、「何をか歎くbべき。母子の契りは、渡りに船に乗りて行くが、岸に着きぬれば散り散りになるが如し。各々が業に任せて行くなり。驚くべきyにあらざ」と云ふ。

また、この女人に、「2この死せる人は、そこには何ぞ」と。答へて云はく、「わが男なり」と云ふ。「いかに歎きたる気色なき」と云へば、「何をか歎くべき。夫婦の習ひは、3市に人の行き会ひて、要事過ぎぬれば方々に散るが如し。添ひ果つべき習ひにあらざ」と言ひける時、この道人、「万法の因縁仮にして、執心あるcべからず。\*在家の人の中にすら、4かかる心持ちあり」と、漸愧の心発りて、諸法の因縁、\*幻化虚妄の事を便りとして、すなはち、仏法を悟りzにけりとぞ。

誠に、深き悟りまでは難くとも、無常転変の世、幻化虚妄の事、見ても知り、聞きも弁わかふべし。5 誰か長生の齡よびに楽しみ、不死の薬を服せる。よくよく  の道理を知りて、6 常住の仏法を尋ぬべし。〔沙石集〕より

**注**

\* 道人⇨出家し、道を求める僧侶。

\* 在家⇨俗世の家にいること、またその人。

\* 幻化虚妄⇨幻のように実体

がなく、事実でないこと。

問一 傍線 a ~ c の「べし（べき・べから）」の文法的意味として最適なものを選び、記号を記せ（同一記号の反復使用不可）。

一記号の反復使用不可。

（6点）

ア 推量

イ 意志

ウ 可能

エ 当然

オ 命令

カ 適當

問二 傍線 x ~ z の「に」を、それぞれ文法的に説明せよ。

（9点）

問三 傍線 1 「しかしか」の指示する内容を、文脈に即して説明せよ。

（6点）

問四 傍線 2・3 をわかりやすく口語訳せよ。

（14点）

問五 傍線 4 「かかる心持ち」とはどのような気持ちか、簡潔に説明せよ。

（6点）

問六 傍線 5 はどういふことを言っているのか、説明せよ。

（6点）

問七



には、傍線6「常住」の対義語である漢字二字の語が入る。それを文中から抜き出して記せ。

(3点)